

2023年度事業計画

2023年1月1日から、2023年12月31日まで

近未来の世界遺産を目指し

—江戸城全体整備構想の策定並びに江戸東京の歴史文化資源を活かした観光まちづくり推進—

—VISION 2032の検証—

世界的な環境変化や気候変動、各差問題等に加えて、日本の国際競争力の低下は、今や待った無しの状況にあるといえる。一方、コロナ禍を経て、社会情勢も目まぐるしく変化を続け、以前、厳しい社会経済環境の中、東京は益々、都市の再開発が進み、自然環境や歴史性がより一層、薄れつつある。

一方、国連は、2018年3月を契機に、短期的な経済的利益を得る為の生態系や文化にマイナスの影響を及ぼす環境利用を抑制し、地域固有の生態系や文化の保全を通じて、長期的な経済利益に繋げていくよう提唱する等「持続可能な観光国際年」を定めている。2019年12月、国連世界観光機関（UNWTO）と国連教育科学文化機関（UNESCO）の主催で「観光と文化 京都宣言」を採択し京都モデルの推進を明記した。

これらは、将来世代への投資として持続可能な開発目標（SDGs）の達成に向けて、観光と文化の力で貢献しようとした画期的なものであり、江戸城全体整備構想の策定及び歴史文化資源を活かした観光まちづくり、即ち「VISION 2032」にとっても、関わりが深いと云えよう。

このように、内外をとりまく目まぐるしい環境変化から、「江戸城全体整備構想の策定並びに江戸東京の歴史文化資源を活かした観光まちづくり」は、より視野を拡げて展望し、事業と運動の共創による一体的発展に向けた構築が必要であるとの認識を深め、2022年度は、「VISION 2032」の準備期間と位置付けた。

2023年度事業計画では、第一次提言活動をはじめとするこれまでの次の取組等を踏まえて、「VISION 2032」の検証に取り組む。

I. VISION 2032の検証（これまでの取組から）

- ・ 第一次提言活動の主な取り纏め
「文化財保存活用計画」「大綱」等の策定を文化庁、都並びに自治体8区に提言
- ・ 調査研究委員会報告「江戸東京歴史文化回廊」の完成
- ・ 有識者の専門的な視点による有意義な意見から学ぶ・講演やセミナー、執筆等
- ・ 会員、市民と有識者の声を通りまとめた。
- ・ その他

II. 普及・啓発・提言活動

VISION 2032における普及・啓発・提言活動の全体像は、「江戸城全体整備構想の策定並びに歴史文化資源を活かした観光まちづくり」等の観点から、会員、市民と有識者等とのを通して、学び、交流し、普及する活動を進め、VISION の実現を目指していく。それらの活動は会報誌やホームページを通し速やかに広く社会一般に公開する。

1. 普及・啓発・提言活動

1) 有識者の講演、オンラインセミナー等

江戸城総構え、建造物、御殿の意匠等、江戸東京の歴史文化資源を活かした観光まちづくりの観点からテーマを選定し、次の通り開催する。

- ・開催内容の詳細はホームページに掲載
- ・場所：日比谷図書文化館(通年・予定)又はオンライン(ユウチュウブ、ZOOM)
- ・対象者と参加費：会員及び一般市民 2000円から3000円(市民、学生等無償先着各3名迄)

- ① アドボガシー入門
- ② 今なぜ、水辺の再生
- ③ 日本の伝統文芸能・文化、
- ④ 江戸城の年中行事
- ⑤ 江戸図屏風
- ⑥ その他(追加・別途検討する)

2. 提言・コミュニケーション活動

- 1) これまでの活動、即ち、第一次提言活動及び調査研究委員会報告や有識者の専門的な視点、会員、市民と有識者の声を踏まえて、引き続き、会員、関係者への情報提供やコミュニケーション活動を進めると共に、必要に応じて、適宜、提言活動を推進する。

以上